

■ 会 告 ■

日本看護倫理学会 第10回年次大会のご案内

看護の新たな歩みを支える倫理

日本看護倫理学会第10回年次大会を平成29年5月20、21日に大分県で開催させていただくことになりました。第10回という節目の大会開催に際し、会員、理事会、関係者の方々にご支援をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

今回の年次大会のテーマは「看護の新たな歩みを支える倫理」といたしました。「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」(平成26年)により、「保健師助産師看護師法」の一部が改正され、平成27年10月より「特定行為に係る看護師の研修制度」が施行されました。この制度によって、医師の作成した手順書により、高度な技術力や判断力を要する「特定行為」を看護師の判断で実施できることとなり、これは事実上の看護の裁量範囲の拡大と言えます。この背景には、超高齢社会を担う地域包括ケアの促進に対応すべく、必要な人に安心安全な医療を提供する看護の力がより一層社会に必要とされている現状があります。

このように社会のニーズと共に看護は新たな歩みを始めています。「誰のために、何をどこまで、どのように医療提供するのか。」このような倫理的な問いは日々の看護実践にいつも投げかけられています。そして、裁量範囲が拡大された看護場面では、医療の意思決定に絡む倫理的問題にますます看護職が関与することになります。そこで、今回は新たな看護の歩みを始めた看護実践の中で、看護の基盤となる倫理についてあらためて皆様と考える機会をもちたいと考えております。

大会では、ボストン大学のPamela J. Grace先生をお招きし「よき実践を導き支える高度実践看護師」のテーマでお話しいただきます。Grace先生は看護実践における臨床倫理や倫理教育に通じておられ、日本の看護に示唆を与えてくれることと思います。日々の看護を見つめる講演として、鹿児島大学医学部客員研究員の小西恵美子先生より「日々の実践に注ぐ倫理の眼；原則、徳、ケアの倫理のアプローチを中心に」をお話しいただきます。琉球大学医学部附属病院の臨床倫理士である金城隆展先生には「臨床倫理とナラティブのすすめ」の講演をお願いいたしました。シンポジウムでは「特定行為に係る倫理的な判断と看護実践」「患者が意思決定できないとき」の二つを企画し、それぞれのテーマに深く関わる看護職、医師、弁護士の方々からご発言していただきます。

さらに、今回は新たな企画として皆様方が臨床でよく遭遇する事例を挙げた事例検討会を開催することになりました。参加者の方々とディスカッションを通じた事例検討ができることを期待しています。交流集会、研究発表に関しても皆様からの多くの企画とご発表をお待ちしております。

看護の現場は目まぐるしく進歩していますが、この大会では少し時を緩やかに、看護の基盤となる倫理を見つめる場となれば幸いです。日本一の温泉県おいたは、海あり山あり味力も満載です。身も心も思考もリフレッシュして明日からの看護の一步を踏み出す力を生む大会となりますことを願い、関係者一同準備を進めております。どうぞ多くの皆様にご参加いただけますようお願い申し上げます。

日本看護倫理学会第10回年次大会
大会長 小野 美喜 (大分県立看護科学大学)

会 期：	2017年5月20日(土)・21日(日)		
会 場：	ホルトホール大分		
事前参加登録締め切り：	平成29年4月7日(金)		
参 加 費：	種別	事前登録	当日登録
	会員	8,000円	9,000円
	非会員	9,000円	10,000円
	学生(学部生、看護専門学校生)	2,000円	
大会HP：	http://jneal0th.umin.jp/		